



1.9 チューンの概要

標準取扱説明時間 : 0:10:00

ビデオ概算時間 : 0:06:30

[ビデオを再生する](#)

チューン

チューンとは

- ある特定の分析用に、装置の性能を最適化すること

チューンの種類

- [オートチューン]
- [カスタムチューン]
- [シグナルモニタ]



オートチューン

- 通常は、[オートチューン]を選択
- オートチューンが終了すると結果はバッチに保存される
- スタートアップでは、機器の基本的な性能である、ハードウェア設定に関するパラメータが最適化されているが、さらにバッチごとにオートチューンを行うと、その分析用に最適化することができる
- ブランクテンプレートから作成したバッチでは、[オートチューン]は選択できない



カスタムチューン

- チューンの対象となるレンズパラメータを個別選択してオートチューンを実行できる
- シグナルをモニタしながら各チューニングパラメータのスライダーや値を操作して、個別にマニュアルチューニングすることもできる
- マニュアルチューニングした結果はバッチに保存される



シグナルモニタ

- 信号をモニタできる
- 各チューニングパラメータを変更できるが、バッチには保存されない



スタートアップとオートチューンの違い

- スタートアップでは、ハードウェア設定とレンズチューンを行う
- スタートアップの目的は、特定の条件で装置の状態をモニタすること
- スタートアップでのパフォーマンスレポートは、装置性能の傾向を知るために重要



ハードウェア設定とオートチューンのパラメータの関係

- スタートアップで最適化したハードウェア設定は、データ測定の時にも利用される
- プリセットメソッドを使うときは、オートチューンのチューンパラメータもプリセットメソッドに含まれており、最適化されたチューンパラメータはバッチに保存される
- スタートアップでの標準レンズチューンパラメータは、オートチューンには使われない



その他

- チューンレポートの作成方法
- バッチ測定中のチューン実行
- チューン実行時のバイアル設定
- カスタムチューンとその他のチューンの詳細については、「2.1 カスタムチューンとその他のチューン」ビデオを参照

